

# 坂本城

坂本城を考  
える会会報

発行責任者  
東山 政司  
大津市下阪本  
3丁目

## 奇跡の発見!! 三の丸石垣・堀が出土



### 発見の概要

令和6年2月7日、大津市は坂本城跡の石垣の発見を発表した。今回の発見は令和5年10月から実施している宅地造成工事に伴う調査で見つかったもので、石垣の長さは約30m、小さきままな大きさの石が使われており、主に自然石だが一部転用石（石造物からの転用）も見られる。高さは発見時1m前後だが、堀の中に転落した石材が見られるため、もう1〜2段分が積み重ねていた可能性がある。石垣前面の堀については、のちの調査で西9mの地点から石垣が見つかっており、そのことから堀の幅は約9mと推定される。場所については従来想定されていた外堀の位置よりも本丸側（湖岸側）に約100m寄り（西側）がわかった。



磁器・国産陶器・瓦・木製品・漆器と多岐にわたり発掘されている。これらのことから石垣の内側（東側）に居住空間が形成され、それが三の丸と推定される。坂本城は現在ほとんど痕跡が残っていないため、今回の発見は城の実態解明につながる大きな発見であり、多くの研究者も高く評価している。

### 今後に向けて

2月10、11日に行われた現地説明会には、全国から二千人を超える方が来場され、関心の高さを伺わせました。大津市は「国の指定史跡認定を目指す」として、その後活用を検討する」としている。保存の英断を下した大津市と協力された三王不動産流通に敬意を表したい。

なお、説明会以外の日には非公開・立入禁止にもかかわらず見学者が来られ、問題となることもあり、将来への課題が浮き彫りとなった。当会では坂本城を「幻の水城」と称してきたが、今回の発見を機に「幻」ではなくなる日が近づいているのかもしれない。  
(文責 東山政司)

# 第18回総会開催 三の丸石垣の発見を機に更なる発展へ

## 令和五年度 事業報告

令和六年八月九日(土)、下阪本市民センターにおいて、第十八回総会が会員参加のもと開催された。総会では河村会長の挨拶の後、藤本一也議長のもと、令和五年度の事業・会計報告、今年度の事業計画・予算案・役員案が提案され、全てが承認決定された。



## 令和六年度 事業計画

- 実施。
- 研修旅行の実施(清洲城・小牧山城)
- 3. 地域連携
- 下阪本文化祭に藤本一也氏によるわら細工展示と紙芝居を実施。
- 4. 広報・その他
- ホームページの更新。
- 会報の発行

1. 公園ガイド  
○十一月に琵琶湖の湧水により湖中の石垣が出現。この時期で八九九名を案内。二月には三の丸の石垣が発掘され説明会に二千人を超える見学者が来訪、公園でも五百人以上の方を案内。
2. 勉強会等  
○大津市文化財保護課の西中久典氏の講演会を

1. 公園ガイド  
○三の丸の石垣は埋め戻されたが、関心のある見学者が多く、例年通り公園ガイドを実施する。
2. 勉強会等  
○総会時に講演会を実施するとともに、研修旅行を実施する。
3. 地域連携  
下阪本の文化祭等、地域の行事に参加・協力する。
4. 広報・その他  
会報・ホームページで情報を発信する。



### 10月27日(日)

JR 比叡山坂本駅 8:00出発  
JR 大津駅観光バス昇降場 8:30出発

### 参加者募集

先着37人

研修予定:  
JR 大津駅観光バス昇降場 18:00頃  
JR 比叡山坂本駅 18:30頃

昼食付 9,000円  
お1人  
朝のレストラン  
西の昼食作

坂本城を考える会  
会長 河村 益孝  
070-5507-7350  
事務局 山本 正史  
090-1671-1236



- 令和六年度役員一覧
- 会長 河村益孝
  - 副会長 恒岡善博
  - 幹事 事務局 山本正史
  - 幹事 会計 森 茂樹
  - 幹事 広報 藤本一也
  - 幹事 調査研究 美内志郎
  - 幹事 地域連携 山岡和則
  - 幹事 普及啓発 石丸 学
  - 幹事 普及啓発 北木 茂
  - 幹事 広報 東山政司
  - 幹事 普及啓発 松山武史
  - 監事 菅井貫二
  - 監事 津田睦美
  - 顧問 吉水真彦

# 坂本城跡の発掘調査成果

大津市文化財保護課 岡田有矢氏

去る6月9日、本会総会

の後、講師に今年2月の坂本城三の丸石垣発見時の調査担当で、大津市文化財保護課の岡田有矢氏を招き、講演会が開催されました。

## 講演の要旨

今回の講演は、まず坂本城の調査に関する歴史を振り返り、ついで令和5年度



の発掘調査成果について話をしていたいただきました。

中世城跡の調査については、大きく2通りの手法に分けられます。

1つは文献資料による歴史地理学的調査、もう1つは発掘による考古学的調査です。まず文献資料による調査については、築城当時の資料は数が少ないと見つっても、残された公家等の日記の記述から、坂本城像として、①天主が二つ、②豪壮華麗（石垣を張り巡らせ）、③琵琶湖とつながり、④頻繁に茶会、ということを挙げられています。坂本城廃城後については、江戸時代の紀行文や地誌の記事を紹介し、それらの記述や地名（字名）から坂本城の具体的な場所（範囲）の復元が試みられました。

て行われた、昭和54年度から令和元年度の計5回の発掘調査の成果について説明がありました。初回は現在キーエンス研修センター辺りの調査です。ここからは礎石建物・石組井戸等が検出され、鯉瓦や焼土も見つかったことから、同地を坂本城の本丸跡と推定しました。次いで明智塚辺りや、キーエンス研修センター東の湖中石垣の調査が行われ、それらの成果および文献資料による調査成果を踏まえ、大津市教育委員会は『新修大津市史』等で坂本城跡の復元を行いました。それが現在まで認識されている坂本城の範囲となりました。その後、平成30年度、令和元年度と発掘調査が行われましたが、三ノ丸と推定されていた場所から見つかった遺構は坂本城築城以前の

次に発掘による考古学的調査です。大津市が主体となっ

ものであり、残念ながら坂本城跡の遺構は見つかりませんでした。そのため坂本城の範囲については、見直しの動きが起っています。



そして今年の2月、大きなニュースになった、令和5年度発掘調査の成果についてです。この調査は南北30mの石垣が検出、その西側で水性堆積が確認され、土師器や国産・輸入陶磁器等が出土し、その年代等から見つかった石垣と堀は坂本城三ノ丸の可能性が高い、と結論付けられました。三ノ丸と推測した理由として

は、①今回より西側での調査で坂本城の遺構が検出されていない、②石垣・礎石建物・瓦が出土、③瓦の出土はあるがその割合が低い、の3点を挙げられています。そしてこの6月、最新の成果として堀を挟んで三ノ丸石垣の対岸となる石垣が検出され、堀幅の一部は9mということが判明しました。今後は今回の調査地を保護し、国指定史跡を目指すということと講演会が締めくくられました。

聴講者は会員29名、非会員56名の計85名で、昨年よりも広い会場にもかかわらず、ほぼ満席となるほど盛況でした。坂本城復元の歴史について、新たな発見・認識を持たれた方も多かったのではないのでしょうか。

講演会の資料については当会ホームページでも公開していますので、興味のある方はそちらも御覧ください。  
(文責 東山 政司)

## 坂本城石垣発見に想う 坂本 美内 志郎

久しぶりの坂本の朗報。マスコミ報道でも大いに盛り上がった。これからも地域の財産として、坂本城石垣発見を大切にしていきたいと思う。

上坂本に居住して32年、自宅前を通る作り道でも個人の方の自宅改築時、長い時間をかけて発掘作業がなされたのを見てきたが、どんな結果だったのか全く分からないうち、に立派な家が建っていた。現在は井神通りの道路拡張工事でも発掘が行われているが、いつの間にか、何事もなかったように静かに進行している状況だ。そもそも、東京の下町育ちの人間には、遺跡の発掘など全く関係のないことであった。昔からある上野台地につらなる、今では全国有数の進学校である開成学園がある道灌山の縄文遺跡や貝塚くら

いしか見たことも聞いたこともない環境で暮らしてきた。

今回の坂本城の三の丸遺跡の発掘で何より特筆すべきは、行政の反応の早かったことだと思う。滋賀県の三日月知事がニコニコ顔で今回発見の遺跡保存に向けたアナウンスをしたことに少しびっくりした。しかし、三日月知事は日吉台で育ち今回発掘現場に近い日吉中学校の卒業生であることを考えれば、当然の行動だと嬉しくなった。さらに、大津市の佐藤市長の土地の所有者と折衝し史跡として保存する方向で合意したとの報道は、現場で粘り強く発掘作業に従事された方々には大きな喜びとなるだろうし、今後の活動上のモチベーションアップにつながると思う。通常は発掘↓調査↓記録↓報告書というサイクルで、遺跡そのものは埋め戻され二度と目の

を見ることもないケースがほとんどだろう。今回のような行政主導の歴史的遺跡として保存が決定することなど数少ないことだと思う。縁あって当地にすむことになった住民の一人として、また「坂本城を考える会」のメンバーの一人として、幻の城といわれる明智光秀の坂本城に今後熱い想いを持ち続けたいと思う。

## 会員募集にご協力を！

ボランティアガイドの充実が求められています。  
どなたかご紹介いただければ、会の説明に伺います。  
よろしくをお願いします。

会長 河村 益孝 070-5507-7350  
事務局 山本 正史 090-1671-1236

## 速報！ 「ハン六文 化振興賞」 受賞内定！

7月末、嬉しいニュースが飛び込んできました。

当会の活動・業績に対し、公益財団法人ハン六文化振興財団（大津市）より第38回「ハン六文化振興賞」に内定の連絡を頂いた。今回の受賞は当会の活動、特に坂本城址公園での案内ボランティア・ガイド（語り部）活動が高く評価された結果とのこと。

により、地域文化の向上に寄与させて頂くことを目的とする」とある。当会の活動が地元下坂本、さらに大津市・滋賀県への文化・社会貢献の一助となっていると評価されたことを素直に喜びたい。なお贈賞式は9月8日に行われる予定。

### 受賞のことは

「このたびは受賞にあずかりまして、誠にありがとうございます。当会は故天田省三前会長を中心に、城の復元と歴史や文化の研究、そして観光振興を行いたいとの思いで結成された団体です。

このたびの受賞は「三の丸の石垣」の出現時の感動と共に、我々の活動が評価されて勇氣と自信を与えられたと大変感激しています。今後も案内活動に頑張りたいと思っておりますので、よろしくご指導を賜りますようお願いいたします。」（会長 河村益孝）